

(始良郡福山町佳例川前原・和田)

位置と環境

遺跡は福山町牧之原から北東方向に約7kmの位置に所在し、標高約390mの南北方向に延びるシラス台地の南東辺部上に立地している。遺跡の西側には検校川をはさんで、縄文時代早期の壺型土器が出土した福山城ヶ尾遺跡が所在する。また、南東側の谷を隔てた台地上には、供養之元遺跡が所在する。

調査の経緯

東九州自動車道（国分IC～末吉IC間）の建設に伴い平成6年10月と平成7年7月に行われた分布調査により遺跡存在の可能性が把握された。

その後、平成9年10月に県教育委員会が確認調査を実施し、旧石器時代～縄文時代の遺跡であることが確認され、平成10年と平成12年に本調査（約1,000㎡）が実施された。

その後、隣接する県道整備が計画されたため、平成13年度に本調査を実施した。

遺構と遺物

平成10年と平成12年の調査では、旧石器時代ナイフ形石器文化期・細石刃文化期・縄文時代（草創期・早期・後期）、古代の遺構が発見された。

旧石器時代では、P17火山灰下から台形石器を含むナイフ形石器のほかスクレイパーが出土し、礫群が尾根上に横たわるように30基検出された。この礫群は直径約30cm、深さ10～15cmの掘り込んだ穴の中にこぶし大の礫を20個ほど入れたものと掘り込みのない礫群が多量の炭化物を伴い隣接して検出され、



第1図 前原・和田遺跡の位置

それで1つのセットを形成しているようであり、ほかの礫群のセットと2～3m程離れて検出された。また、P15火山灰の上層からは、三稜尖頭器、台形石器、尖頭器、切り出し形ナイフ形石器、ナイフ形石器、エンドスクレイパー、石核が黒曜石と流紋岩など使用石材が異なる形でブロックを形成して出土した。ブロックはそれぞれの石材で3ブロックずつあり、合計6ブロック出土し、一部重なりがあった。同時期の遺構としては、礫群が2基検出されたが、それぞれ礫の数が少なく、まとまりは認められなかった。

細石刃文化期は、数点の細石刃と剥片が出土した。

縄文時代になると各時期ともに出土遺物が全体的に少なくなってくる。草創期では、少量ではあるが土器片、使用痕剥片、スクレイパーなどが出土した。また、台地の東側から2基の落し穴が検出され、1基からは底面から逆茂木痕と思われるピットが検出された。

縄文時代早期は、前平式土器、吉田式土器、押型



写真1 旧石器時代4号礫群（P17下位）



写真2 縄文時代草創期落し穴

文土器、塞ノ神A式土器、塞ノ神B式土器、石鏃、スクレイパー、磨石、石皿が出土した。

縄文時代中期～晩期には、春日式土器、指宿式土器、黒川式土器、組織痕跡土器、石鏃、磨製石斧、磨石、石皿などが出土した。

古代～近世にかけては、文明ボラの上位と下位から古道跡が数条検出されたが、周囲から同時代の遺物が出土していないため、時期の詳細は不明である。

特徴

本遺跡で特筆すべき点は、旧石器時代に1つの遺跡で2時期にわたって生活した痕跡が層位的上下関係をもって確認された例は少なく、注目に値する。中でもP17火山灰の下層（シラス風化層上）から調理に使用したと思われる、炭化物を伴う礫群が30基検出され、掘り込みのあるものと掘り込みのないものが1つのまとまりを保ち、各まとまった礫群間が2～3m程離れて尾根上に位置する点であろう。ま

た、P15、P17及びATといった鍵層となる火山灰を間層とするため、遺構・遺物の年代をある程度明確にとらえることができる点であろう。

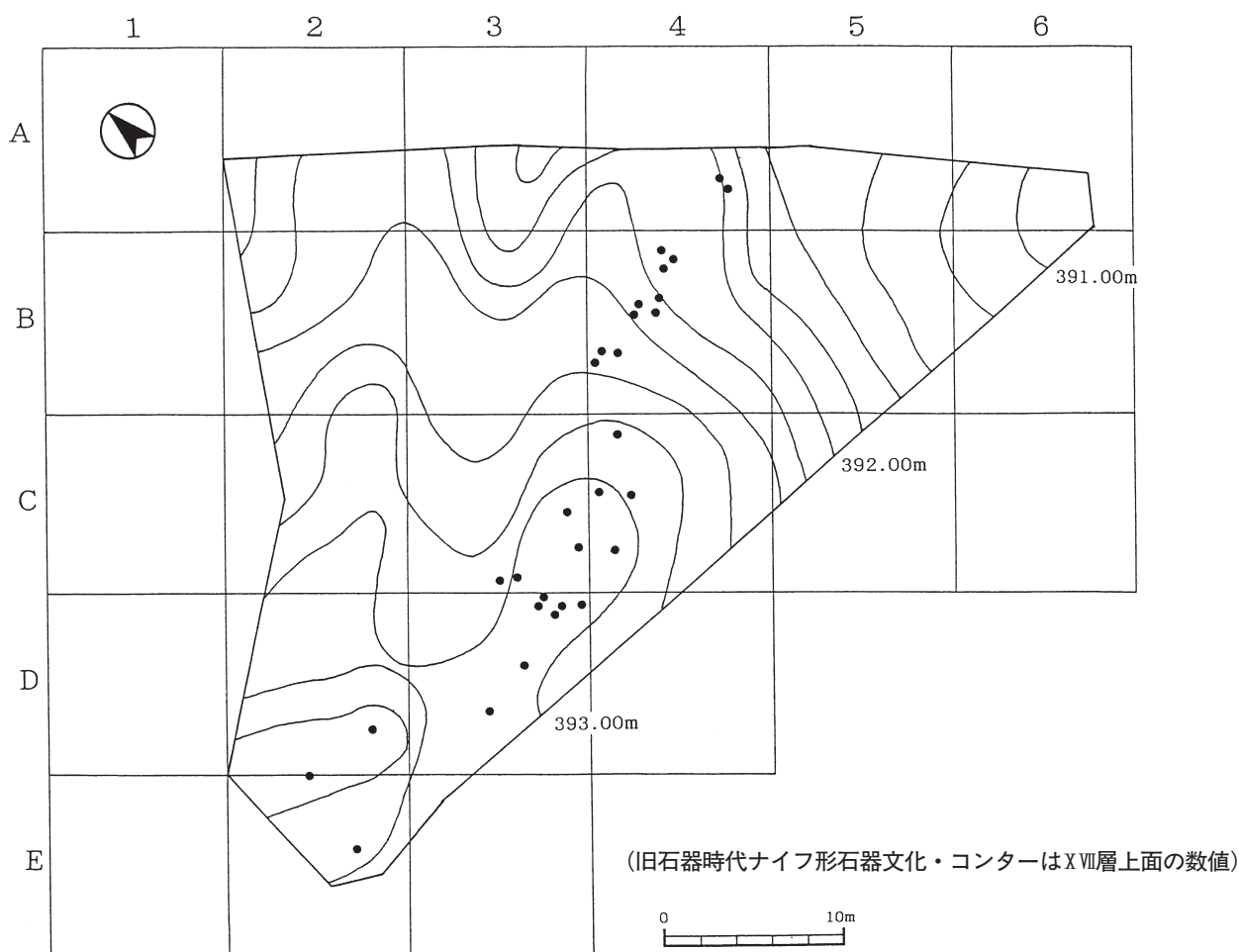
資料の所在

出土遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管されている。

参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター2002「九日田遺跡・供養之元遺跡・前原和田遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』36

(福永修一)



第2図 P17下位礫群位置図